The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	母語・継承語・バイリンガル教育（MHB）学会2023年度活動報告／投稿規定／編集後記／奥付
Author(s)	
Citation	母語・継承語・バイリンガル教育（MHB）研究. 2024, 20, p. 127-152
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/102050
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

母語・継承語・バイリンガル教育（MHB）学会
2023 年度活動報告

2023 年度 役員（敬称略、アルファベット順）

任期は 2 年、再任を妨げない。

1　会長　　1 名　　湯川笑子
2　副会長　　1 名　　清田淳子
3　事務局長　1 名　　佐野愛子
4　会員管理　1 名　　根津誠
5　会計（会費管理を含む）2 名　　滑川恵理子　櫻井千穂
6　紀要編集　3 名　　松尾由紀　松田真希子　三輪聖
7　ウェブサイト管理　1 名　原瑞穂
8　広報　　1 名　　山崎直樹
9　理事　　若干名　明石智子　宇津木奈美子　小澤伊久美　加納なおみ
　　川口慶子　河野あかね　田中瑞穂　友沢昭江　中島永倫子
　　服部美貴　福島青史　真嶋潤子　宮崎幸江　横井幸子

以上 1 ～ 9 の役員、25 名で理事会を構成

10　監事　　2 名　　小川典子　近藤美佳

【名誉会長・顧問】

任期の定めなし。
名誉会長：中島和子（MHB 研究会初代会長）
顧　問　：佐々木倫子、津田和男

【SIG の代表】

• 海外継承日本語部会：中島永倫子　櫻井恵子
• 国内 CLD 児教育部会：櫻井千穂
• 各種言語教育部会：湯川笑子
• バイリンガル作文部会：佐野愛子（2019 年度大会以降は活動停止）

2023 年度（2023/4 － 2024/3）活動一覧

◆開催日	◆場所	◆内容
2023 年 8 月 3 ～ 6 日	オンライン	2023 年度研究大会
2023 年 8 月 5 日	オンライン	2023 年度総会

母語・継承語・バイリンガル教育（MHB）学会
2023 年度研究大会

研究大会テーマ

公正な言語教育を求めてーバイリンガルろう教育を再考する

2023 年度の研究大会は、「公正な言語教育を求めてーバイリンガルろう教育を再考する」をテーマに、全プログラム、オンライン（双方向型）での開催となり、国内外から多くの方にご参加いただきました。MHB の研究領域である海外継承日本語、ろう・難聴児、国内 CLD 児、少数言語を含む各種言語教育の場において、学習者に対する情報保障や言語権、教育を受ける権利について、活発なディスカッションが繰り広げられました。大会テーマに合わせた基調講演とパネルセッション、特別講演は事前に動画も配信し、大会期間中のライブセッションでは、日英同時通訳や日本手話同時通訳をつけて質疑応答を行いました。 また、一般発表 20 件、ワークショップ２つが行われ、８月３日（木）から６日（日）までの４日間で、世界各地から 186 名が参加して議論し合う、MHB 学会らしい大会となりました。

＊＊＊

日時：２０２３年８月３日（木）16：00 ～ 18：00
８月４日（木）８：30 ～ 17：30
８月５日（木）10：00 ～ 18：10
８月６日（日）13：00 ～ 18：00
場所：双方向型オンライン（ZOOM）

◇◇◇プログラム ◇◇◇

１日目：８月３日（木）

16:00 – 18:00 ライブワークショップ　（日本手話／日本語通訳）
『エスノグラフィー入門：日常の言語実践の研究方法として』
講師：柴山 真琴（大妻女子大学）
司会：湯川 笑子（立命館大学）

２日目：８月４日（金）

16:00 – 17:30 基調講演　（録画閲覧時間、録画事前共有：日本語字幕付き）
『バイ／マルチリンガル小児期ろう教育：コンテクストを超えた対話』
講師紹介：湯川 笑子（立命館大学）

第１発表「ガーナにおける小児期ろう児とその養育者の早期ケア・教育について」
ルース・スワンウィック（リーズ大学）
第２発表「ガーナのろう児の早期ケアと支援におけるろう者のリーダーシップとメンタリング：養育者のための多言語多モーダルの資源開発」
ダニエル・フォビ（ウィネバ教育大学）

第３発表「ガーナのろう児の早期ケア・教育におけるろう成人の役割」
リチャード・ドク（ガーナ国立ろう協会）

17:30 – 18:30 質疑応答　（ライブセッション：日本手話／日本語／英語通訳付き）
司会：佐野 愛子（立命館大学）

３日目：８月５日（土）

8:30 – 9:30　大会企画パネル　（録画閲覧時間、録画事前共有：日本語字幕付き）
『言語とアイデンティティ』
第１発表「言葉の復興と心の回復」
北原 モコットゥナシ（北海道大学）
第２発表「私と日本手話：私からみた日本のろうコミュニティー」
富田 望（ハーバード大学）
第３発表「否定されるアイデンティティ:『異』の当事者が抱えるアイデンティティの葛藤」
オーリ・リチャ（千葉大学）
9:40 – 10:30　ディスカッション　（ライブセッション：日本手話／日本語通訳付き）
司会・総括：福島 青史（早稲田大学）

10:35 – 11:00　学会からのお知らせ　（録画閲覧時間、録画事前共有：日本語字幕付き）

11:00 – 12:00　総会　（日本手話／日本語通訳付き）

13:00 - 14:00　特別講演　（録画閲覧時間、録画事前共有：日本語字幕付き）
『ろう者のセルフ・アドボカシー：手話にまつわる人生諸戦略』
講師：森 壮也（日本貿易振興機構アジア経済研究所）
14:00 - 14:30 質疑応答　（ライブセッション：日本手話／日本語通訳き）
司会・講師紹介：田中 瑞穂（北海道大学 博士後期課程）

会員による発表 Session 1（３部屋同時進行）　（発表区分）［使用言語］
（1）15:00-15:30　（2）15:30-16:00　（3）16:00-17:00

■ Room 1　日本手話／日本語通訳付き
(1) ろう者の言語権と日本の法政策について－ろう児のバイリンガル教育を阻むもの－
（口頭発表／研究発表）［日本語］
杉本 篤史（東京国際大学）
(2) 日本語教育政策に含まれる無意識の差別－「日本語教育の推進に関する施策を総合的かつ効果的に推進するための基本的な方針」における批判的談話分析－
（口頭発表／研究発表）［日本語］
土屋 友衣子（大阪大学大学院 博士前期課程）
(3) 特別ラウンドテーブル「ろうの若者、ろう教育を語る」
［日本手話］
司会：吉田 麻莉（ろう塾）
岡 奈々花（元ろう塾）小間 拓海（ろう塾）
松下 綾夏（ろう塾）山中 美侑（ろう塾）

■ Room 2

(1) 日本人 EFL 学習者による EMI コンテクストでのトランス・ランゲージングの方略的使用

（口頭発表／研究発表）［日本語］

鈴木 佑弥（立命館大学大学院 修士課程）

(2) 日中バイリンガル環境で育つ幼児の二言語混用について－トランスランゲージングの視点からの考察－

（口頭発表／研究発表）［日本語］

王 桃（杏林大学大学院 博士後期課程）

■ Room 3

(1) インクルーシブな言語学習環境について考えるための教師用ケース教材－社会レベルで考えることの意味－

（ショートプレゼンテーション／デモンストレーション）［日本語］

古屋 憲章（山梨学院大学）植村 麻紀子（神田外語大学）

池谷 尚美（横浜市立大学）中川 正臣（城西国際大学）

山崎 直樹（関西大学）

(2) 多言語・多文化教育を目指した大－小連携の試み－留学生と学ぶ異文化接触、中国語、韓国語－

（口頭発表／実践報告）［日本語］

三ツ木 由佳（立命館小学校）吉廣 亮子（立命館小学校）

Janiele Shirley（立命館小学校）Brian Nishikawa（立命館小学校）

金津 日出美（立命館大学）

４日目：８月９日（日）

会員による発表 Session 2（３部屋同時進行）　（発表区分）［使用言語］

（1）13:00-13:30　（2）13:30-14:00　（3）14:00-14:30　（4）14:30-15:00（5）15:00-15:30

■ Room 1　［日本手話／日本語通訳付き］

(1) 手話で日本語を教える－在日外国人ろう者対象の日本語教室－

（口頭発表／実践報告）［日本語・日本手話］

佐藤 啓子（ダスキン・アジア太平洋障害者リーダー育成事業日本語研修）

永井 弓子（明晴学園）

(2) 日本語を母語とする高校生の作文データベースの活用可能性－複数言語環境に学ぶ生徒の作文教育のために－

（ショートプレゼンテーション／デモンストレーション）［日本語］

松田 真希子（東京都立大学）佐野 愛子（立命館大学）

阿部 新（東京外国語大学）嶋原 耕一（東京外国語大学）

(3) 文化的言語的に多様な子どもたちの聴く力の発達－縦断的調査の暫定的報告－

（口頭発表／研究発表）［日本語］

小林 幸江（東京外国語大学名誉教授）

(4) DLA 相当のタイ語読解力のアセスメントの試み

（口頭発表／研究発表）［日本語］

ニラモン ラウィナン（金沢大学大学院 博士後期課程）

(5) 複言語環境に生きる親子の言語選択の要因は何か－親 A のライフストーリーに見える経験と意識変容のプロセスに焦点を当てて－

（口頭発表／研究発表）［日本語］

菅野 沙也香（筑波大学大学院 博士後期課程）

■ Room 2

(1) フィリピンルーツ高校生の使用言語とアイデンティティの変化

（口頭発表／研究発表）［日本語］

深石 葉子（立命館大学文学研究科 博士後期課程）

(2) 親子母語教室への参加による保護者の意識変容に関する研究－中国人母親の自尊感情と葛藤に着目して－

（口頭発表／研究発表）［日本語］

姚 瑶（芸術文化観光専門職大学）

(3) 複言語話者の言語意識とアイデンティティに関する考察－中国延辺朝鮮族集住地域の各世代での朝鮮族を事例に－

（口頭発表／研究発表）［日本語］

李 娜（九州大学比較社会文化研究院）

(4)「一親一言語の原則」を貫いた台湾人母と子のナラティブ－バイリンガリズムに対する子の態度の変化と母の葛藤－

（口頭発表／研究発表）［日本語］

中村 香苗（淡江大学）

(5) 大学の継承日本語教育コースで学ぶ複言語話者の言語アイデンティティに関する一考察

（ショートプレゼンテーション／研究発表）［日本語］

藤本 恭子（国際基督教大学）

金山 泰子（国際基督教大学）（筑波大学大学院 博士後期課程）

■ Room 3

(1) 継承日本語学校と公立図書館の協働による読み聞かせの会の取り組み－地域の幼少期の子どもが日本語に触れる機会を増やすために－

（口頭発表／実践報告）［日本語］

国実 久美子（レニソンユニバーシティーカレッジ）

(2) 日台人の大学生が振り返る JHL 学校での日本語学習

（口頭発表／研究発表）［日本語］

服部 美貴（台湾大学）

(3) 継承日本語教育のためのリソースマップの提案

（ショートプレゼンテーション／実践報告）［日本語］

池田 香菜子・根津 誠・西島 阿弥子（国際交流基金日本語国際センター）

(4) バイリンガルの乳幼児における継承語の表出語彙の発達に影響する要因

（口頭発表／研究発表）［日本語］

高 飛（愛知淑徳大学）

ワークショップⅡ「複数言語生活を生かした言語教授法：リテラシーを育むための実践講座」

16:00 – 17:00 講義　（録画閲覧時間、録画事前共有：日本語字幕付き）

17:00 – 18:00 ライブワークショップ　［日本手話／日本語通訳］

講師：加納 なおみ（国学院大学）

司会：湯川 笑子（立命館大学）

（文責　宮崎　幸江）

部会（Special Interest Groups: SIG）活動報告

2024 年 3 月 31 日現在

A. 海外継承日本語部会

1. 代表：櫻井恵子、中島永倫子
2. 連絡先：部会のウェブサイトの「コンタクト」から
3. 発足時期：2012 年
4. 運営体制：2022 年 4 月以降、世界 11 か国で継承日本語教育に携わっている 13 名（代表を含む）で運営する。企画班、政策班、IT 班と担当を分けて活動にあたっている。
5. ウェブサイト：https://sites.google.com/site/keishougo/
6. 活動目的：海外で日本語を継承語として教える教師を中心に、継承語・バイリンガル教育に関心を持つメンバーの集まりとして発足。補習校や週末学校の教師をはじめ、教務を超えて学校運営に携わる人々、幼児教育・家庭教育に関心を持つ人々やその支援者などが、地域を超えて参加している。部員の情報交換と専門家としての能力開発を目的とする。
7. 活動概要：MHB 学会の研究大会に合わせて行う年次会とオンラインによる交流を通じて以下の活動を行ってきた。
   - カリキュラム・教材・教授法などの開発・情報交換
   - 各地の研究会・ワークショップなどの活動紹介
   - 学校の組織や運営についての情報交換・意見交換
   - 継承語教育のアドボカシー・政策支援のための活動
8. 2023 年度の活動：
   - ウェブサイト・グループメールでの交流
     - ➢ 2014 年 1 月に部会ウェブサイトを開設、現在に至る。
     - ➢ グループメールでは、世界各地の継承語教育に関する研究会等の案内を中心に情報交換が行われている。また 2023 年 12 月には国際交流基金が「日本につながる子どもの日本語教育関係者ミーティング」を開催し、参加した本部会の運営委員よりミーティングの様子等についての報告があった。
   - 第 12 回海外継承日本語部会年次会の開催（2023 年 8 月 4 日）

     MHB 学会本大会のテーマである「公正な言語教育を求めて―バイリンガルろう教育を再考する」に関連して、多様な背景を生かした継承日本語教育の活動実践を発表し、後半は座談会を実施。最後に部会の全体会及び各班の活動報告を行った。（参加者：17 の国・地域から約 100 名）
   - 実践発表は下記の通り（発表順）。

     「多様な背景を生かした継承日本語教育の取り組み」岩間晶子（アイオワ継承日本語教室（アイオワ日米協会）、MUSUBI オンライン継承日本語教室）

     「トランスランゲージング教授法を用いた日仏二言語俳句活動」根元佐和子（フランス パリ南日本語補習校）
   - 部員対象のオンラインワークショップ
     - ➢「公正」な言語教育を考える―母語・継承語の事例を中心に― (2023 年 7 月 8 日)

       2023 年 MHB 研究大会のプレイベントとして、真嶋潤子先生を講師に迎え大会テーマの「公正な言語教育」の観点から、複数言語環境で育つ子どもたちの母語・継承語の教育に関する事例をご紹介いただき、グループディスカッションを行った。（参加者：約 60 名）

B. 国内 CLD 児教育部会

1. 代　　表：櫻井千穂（大阪大学）
2. 連 絡 先：mhb.cldsig@gmail.com
3. 発足時期：2014 年
4. 会　　員：182 名（一般会員 97 名、学生会員 23 名、準会員 62 名）
5. 運営委員：櫻井千穂（大阪大学・代表）、宮崎幸江（上智大学短期大学部・副代表）、滑川恵理子（京都女子大学）、原瑞穂（上越教育大学）、松田真希子（東京都立大学）、伊澤明香（関西大学）
6. 活動目的：当部会は、日本国内で言語的マイノリティの立場におかれている文化的言語的に多様な子ども（CLD 児）の複数言語の発達・習得および、教育全般に関わるテーマを扱うことを目的に活動する。研究集会やメーリングリストによる情報交換・意見交換などを通じて、ネットワークの構築やメンバーの相互理解と能力開発（プロフェッショナル・ディベロップメント）を目指す。
7. 2023 年度の活動：

1）2023 年 8 月 3 日（木）18:00-20:00（参加者 38 名）

大会連動企画として「私の実践と研究をつなぐ－ CLD 児の教育の観点から－」を開催した。国内 CLD 児の教育現場で実践に携わり、大学院で研究をしている人に話し手になってもらい、その経験や意義や悩みを共有する場とした。発表やその後の交流会を通じて、参加者が自らの実践を振り返り、もっとよくするために研究活動がどう役に立つのかを考える機会を提供することができた。このような実践と研究をつなぐ場を設けることで、自身の実践を研究して発表したいと思う人が増えること、実践者、院生、専門家とのネットワーキングづくりを今後も目指す。

当日のプログラム概要は以下の通り。

＜第 1 部：語りを聞く＞

荻田朋子さん（大阪大学大学院博士後期課程）
権野禎さん（お茶の水女子大学大学院博士後期課程）
バラ・エネザンさん（東京都立大学大学院博士後期課程）
PHAM PHI HAI YEN さん（大阪大学大学院博士後期課程）
瀬戸麗さん（日本学術振興会特別研究員 PD（京都大学））

＜第 2 部：交流会＞

8. 2024 年度の活動予定：

2023 年度の活動を通して、現在大学院で CLD 児教育に関して学んでいる若手研究者のネットワークが育まれつつある。こういった会員の主体的活動を後押しできるよう、2024 年 8 月の MHB 研究大会連動企画として SIG 集会を開催予定。

C. バイリンガル作文部会

1. 代　　表：佐野愛子（立命館大学）
2. 連 絡 先：aikosano@fc.ritsumei.ac.jp
3. 発足時期：2014 年（2019 年度大会以降は活動停止）

D. 各種言語教育部会

1. 代　　表：湯川笑子（立命館大学）
2. 連 絡 先：ved04614@nifty.com
3. 発足時期：2019 年
4. 運営体制：MHB 学会員 177 名（2024 年 3 月 8 日現在）が部会メンバーとして所属。運営委員

を小川典子（愛知大学）、小澤伊久美（国際基督教大学）、河野あかね（つくばインターナショナル・スクール）、近藤美佳（大阪大学）、佐野愛子（立命館大学）、山崎直樹（関西大学）、横井幸子（大阪大学）が、事務局を松尾由紀（立命館中学校高等学校）が務める。

5. ウエブサイト：https://sites.google.com/view/mhb-kgk/

6. 活動目的：各種言語教育分野は、日本の中での音声言語の 2 言語（多言語）教育のうち、CLD 児を対象とした日本語教育を除くあらゆる教育活動を対象とする。たとえば、インターナショナル・スクール、外国人学校、イマージョン教育、アイヌ語などの先住少数派言語の教育、留学生教育、初等・中等教育において高い運用能力を育て実際に運用させる外国語教育、大学の英語科目開講（English-Medium Instruction、EMI）、中学・高校・大学での 2 つ以上の外国語習得を目指したプログラム、家庭での複数言語使用・教育を含む。各種言語教育分野は、教育対象に誰を含むか、また学習者の言語能力や発達段階によって CLD 児の言語教育分野との区分が困難な場合もあるが、この区分はもともと便宜上のものであり、区分に縛られずに柔軟に活動していく。この部会は、上記のあらゆる教育や学習の場で多言語使用者を育てる方法を模索し、よい教授法を共有し、この分野の研究を目標言語の別を問わず推進していく場とする。

7. 活動概要：部会メンバーの教育・研究の能力向上に貢献できるような会合やワークショップなどを開催し、情報交換、発表、意見交換を行う。2023 年度には 2 回のオンライン茶話会を行った。第 5 回は、各種言語教育のための交流活動についての実践や意見を交換した。第 6 回は、各種言語教育クラスでのレベル差への対応について実践や意見の交換を行った。

第 5 回茶話会　12 月 3 日 17:00~18:20

第 6 回茶話会　3 月 10 日 17:00~18:20

8. MHB 研究大会開催時の部会会合（オンライン）

大会ウイークの最初のイベントとして SIG の集まりを持った。先駆的な外国語教育および日本語以外の言語を継承語として持っている生徒の言語資源を生かす教育を実践されている高等学校３校から、その理念、生徒や学校の背景、教育の方法、成果についてお話を伺い、聴衆が関わるそれぞれの現場に生かしたいというのが主旨であった。発表者と発表タイトルは以下の通りである（敬称略）。

発表者 1　「国際交流を含むサイエンス・フェアを軸に育てる日英バイリンガル高校生の育て方」……武田菜々子（立命館大学付属立命館高等学校）

発表者 2　「高校における多様な外国語教育と高大接続の可能性について」……黒澤眞爾（関東国際高等学校）

発表者 3　「門真なみはや高校における母語・継承語教育－中国ルーツの生徒を対象にした授業実践」……王雁・柳素子（大阪府立門真なみはや高等学校）

（文責・各部会代表）

母語・継承語・バイリンガル教育（MHB）学会会則

第1条【名称】本会は母語・継承語・バイリンガル教育学会 （The Japanese Society for Mother Tongue, Heritage Language, and Bilingual Education: MHB） と称する。

第2条【事務局】本会の事務局は事務局長の勤務校の研究室内に置く。

第3条【目的】本会は下に示した領域を対象分野として、以下に示した活動を行うことを通して、母語・継承語・バイリンガル教育の発展に寄与することを目的とする。

【活動】

1. 対象領域の研究活動の活性化を目指した活動
2. 対象領域の実践活動の質の向上に資する活動
3. 会員間の情報交換と交流
4. リソース（参考文献や調査データ）収集と情報発信

【対象領域】

バイリンガル教育を必要とする幼児・児童・生徒、およびその他の学習者の言語教育を対象とする。以下にその対象者領域の類型を示す。

1. 継承語としての海外日本語教育
2. ろう・難聴児のためのバイリンガル教育
3. 文化的・言語的に多様な学習者（CLD児）の母語･継承語･バイリンガル教育（日本語教育を含む）
4. 国際学校・外国人学校児童生徒の言語教育、先住民族の言語の教育、複数言語育成を目指した外国語教育など各種言語教育（英語教育を含む）

領域の区分を超えて広く、評価方法、研究方法についても研究対象とする。

第4条【事業】本会は前条の目的を達成するために、次の事業を行う。

1. 年次大会および必要に応じて学習会、ワークショップなどの開催
2. 紀要発行
3. 部会活動
4. その他、目的を達成するために必要な事業

第5条【部会】本会は以下の部会（Special Interest Group: SIG）を持ち、SIGの会員に登録したMHB会員の任意の参加によって活動する（複数SIGへの参加可能）。またSIGにはMHB会員以外の参加も可とする。

a. 海外継承日本語部会
b. 国内CLD児教育部会
c. バイリンガル作文部会
d. 各種言語教育部会

第6条【会員】本会の会員は、本会の趣旨に賛同して会員登録をした、以下の1、2の種類の会員よりなる。

1. 一般会員　本会の趣旨に賛同する個人
2. 学生会員　本会の趣旨に賛同する個人で、大学または大学院に正規に在籍している学生
3. ただし、上記の会員登録をせずにSIGに参加登録をする人を「準会員」と呼ぶ。

第7条【年会費】

1. 会員は年会費を払う。本会の会費（年額）は以下のとおりとする。

一般会員　　4,000円

学生会員　　3,000円

2. 会費は指定の期日までに所定の口座に振り込むものとする。
3. 年度途中の入会者の年会費も、第1項に記載の金額と同額とする。

第8条【入退会】

1. 本会の趣旨に賛同して入会を希望する者は、所定の入会申込書を提出するとともに年会費を納付することとする。
2. 本会の退会を希望する会員は、事務局に退会届けを提出することとする。
3. 所定の年会費を滞納した会員は、年度末に退会扱いとする。

第9条【会員の権利と義務】本会の会員（即ち、一般会員と学生会員）は、以下の権利と義務を有する。

1. 会員は年次研究大会において研究発表・実践報告・ワークショップ等を行う資格を有する。
2. 会員は総会に出席して審議を行う権利と義務を有する。
3. 会員は紀要に投稿する権利を有する。

ただし、上記の三項に規定される権利と義務を有するのは、指定の期日までに当該年度の年会費を納付した会員に限ることとする。

第10条【役員】本会に次の役員を置く。

1. 会長　　1名　　任期は2年、再任を妨げない 。
2. 副会長　　1名　　任期は2年、再任を妨げない。
3. 事務局長　1名　　任期は2年、再任を妨げない。
4. 会員管理　1名　　任期は2年、再任を妨げない。
5. 会計（会費管理を含む） 2名　　任期は2年、再任を妨げない。
6. 紀要編集　3名　　任期は2年、再任を妨げない。
7. ウェブサイト管理　1名　　任期は2年、再任を妨げない。
8. 広報　　1名　　任期は2年、再任を妨げない。
9. 理事　　若干名 任期は2年、再任を妨げない。

1～9の役員で理事会を構成する。

10. 監事　　2名　　任期は2年、再任を妨げない。
11. 名誉会長　1名　　任期の定めなし。
12. 顧問　　若干名　任期の定めなし。

第11条 【運営】本会は次の運営組織を持つ。

1. 総会　　会員をもって構成し、本会の最高機関として会の意志と方針を決定する。
2. 理事会　本会の事業運営と執行の責任を負う。

第12条【役員の選出】本会の役員は以下のように選出する。

1. 会長は理事会において選出し、総会において承認を得る。
2. 副会長、事務局長、会員管理担当、会計担当、紀要編集担当、ウェブサイト管理担当、広報担当は会長が選出し、総会において承認を得る。

3. 理事は理事会において選出し、総会において承認を得る。
4. 監事は理事以外の会員から会長が委嘱する。
5. 名誉会長、顧問は理事会の議を経て決定する。

第13条【役員の任務】役員の任務を以下に定める。

1. 会長は本会を代表し、会務を総括する。
2. 副会長は会長を補佐し、必要があれば、会長の任務を代行する。
3. 事務局を事務局長の所属する機関に置き、事務局長は学会の運営に関する実務を担当する。
4. 会員管理担当は会員に関する名簿を管理する。
5. 会計担当は本学会の経理および会員の年会費を管理する。
6. 紀要編集担当は別に定める投稿規定、編集要領の細則に基づき紀要を刊行する。
7. ウェブサイト管理担当は本学会のウェブサイトを管理する。
8. 広報担当は本学会の広報を担当する。
9. 理事は理事会を構成し、年次大会、学会誌の編集、会の事業の企画・運営にあたる。
10. 監事は本学会の会計監査を行う。
11. 名誉会長、顧問は、学会の運営に関し、理事会や役員の要請に応じて助言する。

第14条【総会】総会について以下に定める。

1. 総会は、一般会員と学生会員より組織し、以下の議題を提出し、審議・議決を行う。定例総会は年に１回年次大会のときに、また臨時総会は会長が必要と認める場合、随時開催する。
   - ・前年度事業報告
   - ・本年度事業計画
   - ・前年度決算と本年度予算
   - ・役員の改選
   - ・会則の変更
   - ・その他理事会が認めた事項
2. 総会の議長は総会において選出する。
3. 総会の議決は、総会に参加している一般会員と学生会員の過半数の賛同によって決する。

第15条【学会誌】学会紀要の投稿規定、編集要領に関しては、別途細則を設ける。

第16条【会計年度】本会の会計年度は毎年4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

第17条【会則の改定】本会則の改定は、会長によって提案され、理事会および総会にて決定する。

附則

1. この会則は2018年8月8日より施行する。ただし、第7条は 2019年4月1日より、第6条、第9条1，2，3は2018年4月1日より適用する。
2. この会則は2020年8月9日に更新した（第10条、第12条、第13条）。
3. この会則は2021年8月7日に更新した（第5条）。
4. この会則は2022年8月6日に更新した（第3条）。
5. この会則は2023年8月5日に更新した（第5条）。

以上

『母語・継承語・バイリンガル教育（MHB）研究』第 21 号　投稿規定

『母語・継承語・バイリンガル教育（MHB）研究』第21号への投稿を募集いたします。MHB学会が取り組んでいる研究領域に関する論文・報告を以下の要領で募集します。ふるってご応募ください。

投稿締切：2024年9月30日（月）正午（東京時間：UTC+9）必着

投稿資格：投稿は会員(一般会員と学生会員)に限ります。非会員の場合はMHB学会ウェブサイト https://mhb.jp/admission の「入会案内」にある説明に従い、入会手続きをおとりください。

投稿原稿の内容：MHB学会の対象領域（学会会則 https://mhb.jp/kaisoku 参照）に関するオリジナルな研究であり、かつ、以下の条件を満たすものとします。

- 原稿は未発表のものに限ります。ただし未発表の論文には、学会での口頭発表ないしその内容をまとめた予稿集も含まれます。
- 記述言語を変えたとしても内容的に同一の論文は、二重投稿となります。
- 投稿者と同一の著者によって既発表の論文と内容の重複が多く、新規性が認められない投稿は受理されないことがあります。
- 筆頭著者の複数投稿は可能ですが、二重投稿やサラミ論文と認められた場合、いずれの投稿も不採択となります。

【対象領域】（学会会則より抜粋転載）

バイリンガル教育を必要とする幼児・児童・生徒、およびその他の学習者の言語教育を対象とする。以下にその対象者領域の類型を示す。

1. 継承語としての海外日本語教育
2. ろう・難聴児のためのバイリンガル教育
3. 文化的・言語的に多様な学習者（CLD児）の母語・継承語・バイリンガル教育（日本語教育を含む）
4. 国際学校･外国人学校児童生徒の言語教育、先住民族の言語の教育、複数言語育成を目指した外国語教育など各種言語教育（英語教育を含む）

領域の区分を超えて広く、評価方法、研究方法についても研究対象とする。

論文カテゴリー：『母語・継承語・バイリンガル教育（MHB）研究』における区分カテゴリーは、「研究論文」「調査・実践報告」「研究ノート」の3つです。カテゴリーの定義は以下の通りです。

- **研究論文**：先行研究に加えるべき独自の研究成果が、具体的なデータを用いて明確に述べられているもの。
- **調査・実践報告**：言語データ、史的資料、教育の現状分析、意識調査など、資料的価値が認められる報告が明確に記述されているもの。あるいは、教育現場における実践の内容を具体的、かつ明示的に描き、その結果について整理したもの。
- **研究ノート**：萌芽的研究課題を提起し、更なる展開が予想されるもの。

＜査読について＞

いずれのカテゴリーの論文も、MHB学会が取り組んでいる研究領域との関連性、研究目的の明確さ、研究の独自性、分析・考察の実証性および論理性を重視して査読がなされます。研究ノートについても、最低限の先行研究を提示すること、萌芽的研究に相応しい分析方法を求めます。

論文の書式：必ずテンプレートをダウンロードして使用してください。

- 用紙　A4判 横書きワープロ原稿
- 余白　上下左右28mm
- 字詰め　40字（字送り10.9pt）×38行（行送り17.95pt）

論文の長さ：研究論文、調査・実践報告15ページ以内、研究ノート12ページ以内

要旨（和文）は400字以内で、本文の後ろのページに記入してください。要旨は規定ページ数に含まれません。なお、要旨（英文）は掲載決定後の記入となります。

使用言語：日本語あるいは英語。ただし、例示のために他言語の単語などを含むことは可能です。

投稿方法：MHB学会ウェブサイトの紀要21号投稿募集（https://mhb.jp/archives/2451）から、テンプレート、書式説明、別紙をダウンロードしてください。書式説明を読んだ上で、①論文原稿（必ずテンプレートを使用、WordファイルとPDFファイル）と②別紙を作成し、Eメールに添付して下記担当者に送信してください。メールの件名は「MHB21号投稿原稿」とし、ファイル名は以下のようにしてください（執筆者名の部分は筆頭執筆者の姓のみを大文字で）。

①論文原稿ファイル名　OZAWA_MHB21.docx /OZAWA_MHB21.pdf

②別紙ファイル名　OZAWA_Besshi.docx

＜注意事項＞

- 論文原稿はWordファイルとPDFで作成してください。
- 論文原稿には、執筆者名や所属機関名など、執筆者が特定できるような情報や連絡先などは書かないでください。
- 研究倫理については、執筆者の所属機関の倫理規定を順守してください。

採　　否：編集委員会が審査の上、採否を決定し、一次審査の結果を11月末までにお知らせします。

- 掲載決定論文につきましては、和文原稿の場合は和文要旨と英文要旨・氏名・所属機関名、英文原稿の場合は和文要旨と英文要旨・片仮名書き氏名・所属機関名を加えたWordファイルとPDFの提出をお願いします。
- 修正をお願いする場合もあります。
- 採用となった執筆者には、掲載号がダウンロードできるMHB学会ウェブサイト内の会員専用ページのパスワードをお知らせします。

公　　刊：『母語・継承語・バイリンガル教育（MHB）研究』は第15号より電子媒体での公刊となり、15号以前の全ての号もウェブサイトで公開しています。

- 採択された論文は電子化され、以下のウェブサイトで順次公開されることになります。本紀要への投稿は、論文の電子化と一般公開についてご承知・ご了解を得たものとみなします。
  ①刊行直後の『母語・継承語・バイリンガル教育（MHB）研究』はMHB学会ウェブサイトにパスワードをかけて掲載します。パスワードはその年度の年会費を納付された学会会員のみにご案内します。
  ②刊行後1年が経過した『母語・継承語・バイリンガル教育（MHB）研究』は、学会ウェブサイトから非会員の方もダウンロードできるようになります。また、大阪大学のKnowledge Archiveでもダウンロードできるようになり、機関リポジトリへも公開されます。
- 本誌に掲載された論文等の著作権はMHB学会に帰属します。執筆者が自己の著作物を商用などに利用する場合には、MHB学会の許諾を必要とします。

送付先：MHB学会理事（紀要編集）松田真希子
Eメールアドレス：mhb21.editorial.board@gmail.com
メール件名に「MHB21号投稿原稿」とお書きください。

問い合わせ先：松田真希子
Eメールアドレス：mhb21.editorial.board@gmail.com

母語・継承語・バイリンガル教育（MHB）学会について

母語・継承語・バイリンガル教育学会（MHB学会）は以下の目的のため、下に示した領域を対象分野として活動を行っています。

【目的】

1. 対象領域の研究活動の活性化
2. 対象領域の実践活動の質の向上
3. 会員間の情報交換と交流
4. リソース（参考文献や調査データ）収集と情報発信

【対象領域】

バイリンガル教育を必要とする幼児・児童・生徒、およびその他の学習者の言語教育を対象とする。以下にその対象者領域の類型を示す。

1. 継承語としての海外日本語教育
2. ろう・難聴児のためのバイリンガル教育
3. 文化的・言語的に多様な学習者（CLD児）の母語・継承語・バイリンガル教育（日本語教育を含む）
4. 国際学校･外国人学校児童生徒の言語教育、先住民族の言語の教育、複数言語育成を目指した外国語教育など各種言語教育（英語教育を含む）

領域の区分を超えて広く、評価方法、研究方法についても研究対象とする。

MHB学会には以下の部会（Special Interest Group: SIG）があり、SIGの会員に登録したMHB会員の任意の参加によって活動を行っています。

a. 海外継承日本語部会
b. 国内CLD児教育部会
c. バイリンガル作文部会（2019年度大会以降は活動停止）
d. 各種言語教育部会

（インターナショナル・スクール部会は2023年4月1日より各種言語教育部会と合流しました。インターナショナル・スクール部会の2022年度までの活用内容についてはこちらを参照してください。https://sites.google.com/site/mhbinternationalschool/）

参加を希望する方は、＜MHB専用 MiiT+ サイト＞にログインし、会員情報欄から申請してください（複数SIGへの参加が可能です）。

ただし、海外継承日本語部会はメンバー同士でやり取りするメーリングリストの手続きのため、会員情報欄からの申請だけでなく、部会担当者にも以下に記載の窓口からご連絡ください。担当者からの確認メールをもって参加手続き完了とします。

【SIGの代表と連絡先】

a. 海外継承日本語部会 : 中島 永倫子・櫻井 恵子
部会のウェブサイトの「コンタクト」からご連絡ください。https://sites.google.com/site/keishougo/

b. 国内CLD児教育部会 : 櫻井 千穂　mhb.cldsig@gmail.com
c. バイリンガル作文部会 : 佐野 愛子（2019年度大会以降は活動停止）
d. 各種言語教育部会 : 山崎 直樹（部会のウェブサイトの「問い合わせ」からご連絡ください。）
https://sites.google.com/view/mhb-kgk/

MHB学会では、研究大会（夏）や勉強会など（随時）を企画・開催しています。また、紀要等を刊行しています。

MHB学会のお知らせは、メーリングリスト（会員登録済みのアドレスからのみ投稿および受信が可能）や、MHB学会ウェブサイトを通じて行っています。

【年会費】

一般会員　　4,000円
学生会員　　3,000円
SIGへの参加のみの準会員は年会費なし
※納付方法は、「入会案内」 https://mhb.jp/admission をご覧ください。

MHB学会は、学会の趣旨に賛同される方を会員として随時受け入れています。
入会希望の方は「入会案内」 https://mhb.jp/admission からお申し込みください。

母語・継承語・バイリンガル教育（MHB）学会　事務局

『母語・継承語・バイリンガル教育（MHB）研究』
第21号　論文の書式について

1．用紙・書式

別紙のテンプレートでは下記の設定になっています。この設定を変えないでください（テンプレートの上で文字を挿入すれば設定通りになりますので、文字フォントやポイント数の設定等が省けます。）。またテンプレートには左側に行番号が設定されています。これも変更しないでください。なお、投稿規定にある枚数制限は、下記の掲載決定後に記入する項目を除いた状態での上限です。

用紙　　：A4判横書きワープロ原稿
余白　　：上下左右28mm
字詰め　：40字（字送り10.9pt）×38行（行送り18pt）、両端揃え

2．タイトル、著者名、要旨、キーワード、所属（下線部は掲載後に記入）

- 最初の行にタイトル（MS明朝、14pt、太字、中央揃え）
  副題がある場合は、ダッシュではさむ（MS明朝、12pt、普通字体）《－副題－》。
  1行あけて、日本語表記の著者名と所属（括弧内）（MS明朝、10pt、中央揃え）
  改行してメールアドレス　（Times New Roman、10pt、中央揃え）
- 1行あけて、英文タイトル（Times New Roman、12pt、太字、中央揃え）
  副題がある場合は、コロン（：）をタイトルの末尾に付ける（Times New Roman、11pt、普通字体、中央揃え）。
  1行あけずに、ローマ字表記著者名（Times New Roman、10pt、中央揃え）
- 和文要旨（MS明朝、10pt、400字以内）は、投稿時は本文の最後に記入する。要旨は本文の規定ページ数には含まれない。なお、英文要旨は掲載決定後に記入する（Times New Roman、10pt、200語以内）。英文タイトルと英文要旨は英語母語話者にチェックをしてもらう。掲載決定後は、１行あけて和文要旨（MS明朝、10pt、400字以内）、１行あけて英文要旨（Times New Roman、10pt、200語以内）を書く。和文、英文とも行頭は左揃えにする。
- 1行あけて、キーワード（5語まで。本文と同じ言語のキーワードのみ）を入れる（MS明朝またはTimes New Roman、10pt、左揃え）。日本語の場合にはキーワードとキーワードの間に読点を入れる。英語の場合には半角のコンマを入れる。
- 英文タイトルの大文字・小文字使用についてはAPA (The American Psychological Association) の Publication Manual 第7版に準拠し、タイトルとサブタイトルの頭以外の冠詞、前置詞、接続詞は小文字にする。《Language Policies and Practices in the Internationalization of Higher Education on the European Margins: An Introduction.》
- 著者名は、日本語表記の場合は姓名の間に半角スペース《山田 花子》、カタカナ表記の場合は、《スミス ジョン》とする。英語表記は、名・姓の順に並べ、名も姓も頭文字のみ大文字、名と姓の間は半角スペースを入れる《Hanako Yamada》（Times New Roman、10pt、普通字体、中央揃え）。
  　著者が複数の場合は、日本語表記は著者と著者の間に読点（、）を入れ、《山田 花子、木村 太郎、ジョン スミス》とし、英語表記の場合は、著者と著者の間およびandの前に半角コンマを入れ《Hanako Yamada, Taro Kimura, and John Smith》とする。
  　なお、姓名の概念が日本語や英語などの言語と異なる場合には当該言語の慣習に従うものと

する。

- 所属については、大学院生の場合は身分を明記する《〇〇大学大学院 博士課程》。

3．見出し・本文

フォント：MS明朝10pt（英数字はTimes New Roman 10pt）

節見出し：1．（全角数字＋全角ピリオド）＋見出し（太字）。
　　１行あけて本文を書き始める。
　　項見出し（1.1）の前も１行あける。

項見出し：1.1　（半角数字＋半角ピリオド＋半角数字＋半角スペース）＋見出し（太字）。1行あけずに本文を書き始める。

項見出し：1.1.1　（半角数字＋半角ピリオド＋半角数字＋半角ピリオド＋半角数字＋半角スペース）＋見出し（太字）。
　　1行あけずに本文を書き始める。

> ※見出しと行あけについて：下記のように1.1 の直後が1.1.1 である場合、1.1 と1.1.1 の間に１行あける必要はないが、1.1.1の後に1.1.2が続く場合、1.1.2の前に１行あける。
>
> **1.1 見出し**
>
> **1.1.1 見出し**
>
> ××
>
> （1行あける）
>
> 1.1.2 見出し
>
> ××

句読点：句点は「。」、読点は「、」。

カッコ：（ ）「」『』ともに全角使用。ただし英文の引用文献リストの ( ) は半角。

数　字：アラビア数字の場合は半角を使用する。

注　　：稿末注とし、本文の直後に入れる。フォントは9pt
　　本文中の注は「上付き」を使用し、右肩に半角の「数字+パーレン」1)2) ‥で示す。

本文中の文献表示：

- 著者名・刊行年を本文で表示する場合
　　山田・田中（1990）、Dressler and Kamil（2006）、Bialystok et al.（2000）
- 著者名・刊行年を本文カッコ内で表示する場合
　　（山田・田中, 1990）、（斎藤, 2000; 山田, 2002）、（Cummins, 1981, 1991）、（Dressler & Kamil, 2006）、（Bialystok et al., 2000）
- 著者名・刊行年を本文カッコ内で表示し、ページ数も記載する場合
　　（山田・田中, 1990, p.5）

4．図表（発話データ等を含む）

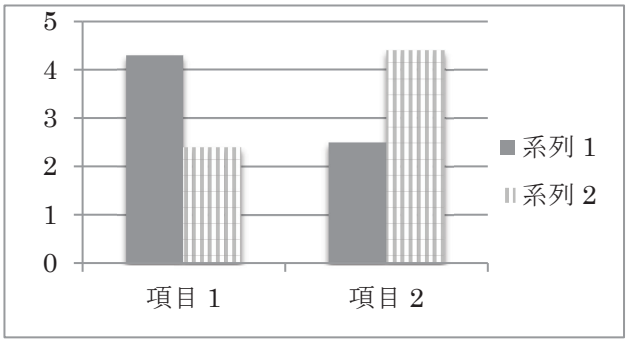
- 本文と図表・発話データ等の間は１行あける。
- タイトルは表や図の上に、行をあけずに表記する。
- 注（*p*値など）は、図表の下に、行をあけずに表記する。
- 図表内には、9pt未満の文字は使用しない。
- 網掛けなどの使用や図表は見やすさにご配慮ください。
- 大きな表は、頁をまたがって掲載しても構わないが、なるべく頁内に収まるよう配置すること。また、頁をまたぐ場合は再度表のタイトルを提示すること。最終的には印刷段階で調整する。

表1　タイトル（表の上、中央揃え、MSゴシック・Arial、9pt）

MSゴシック・Times New Roman、 9pt以上		

注（表の下、左揃え、MS明朝・Times New Roman、9pt）

図1　タイトル（ 図の上、中央揃え、MSゴシック・Arial、9pt）



注（図の下、左揃え、MS明朝・Times New Roman、9pt）

- 発話データ・長めの直接引用については、元の文章を一つのブロックとして扱い、全体を本文より全角２文字下げ、行間を最小値の0ポイントとする。タイトルはデータの上に左揃えで書く。発話データのデータ番号や引用元はデータ（引用文）の次の行に右揃えで入れる。

発話データ1　（和文：MSゴシック、英文：Arial、10pt、左揃え）
そうですね、いつも思うことなんですけど、この会のいいところは、会員の距離が近いところですかね。実際は世界中にいるから、皆さん物理的にはとても遠いんですけどね。でも、学会で会えるのを楽しみにしてる人もいるし、なんていうか、「わー、久しぶりー、元気だったー？」みたいな。ね、そうでしょ？

発話番号00

- 発話シークエンスを提示する必要がある場合は、表形式にして、発話者やターン番号などの項目ごとに記入することを推奨するが、データの性質上他の提示方法を選択することも可能である。

5．注

- 半角数字1)　2)　…と番号を振り、番号の後ろに全角スペースを入れる。複数行にわたる際には、文章の行頭を上下で揃える。
- 和文はMS明朝、英数字はTimes New Roman、フォントサイズは9pt

6．引用文献

- 論文中に引用したもののみを挙げる。
- 日本語文献（50音順）の次に英文文献（アルファベット順）で記載する。
- 日本語表記はMS明朝、英数字はTimes New Roman、フォントサイズは9pt、行間は最小値の0ポイントとする。
- 引用文献リストの（　）は、日本語文献は全角、英文は半角とする。
- 一点の文献情報が複数行にわたる際には2行目以降の行頭は原則全角2.5文字下げる。
- DOIがある文献についてはその文献情報の末尾に提示する。
- 文献情報としてURLを記載する場合には「より取得」などの文言は必要ない。

＜日本語文献表記＞

- 著書の場合：
  山田花子（1998）『論文の書き方』MHB出版
  ＊著者名の姓と名前の間にスペースは入れない。
- 学術誌掲載論文の場合：
  山田花子（1998）「日本語文献」『MHB研究』20（5）, 111-119.
  ＊号数の後に半角コンマ、ページ番号の後にはピリオドを入れる。
- 著書掲載論文の場合：
  山田花子（1998）「日本語文献」鈴木一郎・佐藤二郎編『文献の表記方法』（pp.111-120）MHB出版
  ＊著書名の後のカッコ中に「pp.」を用いてページ番号を記載、最後にピリオドはなし。共著者の場合は、ナカグロ「・」で並記。

＜英文文献表記＞

APA (The American Psychological Association) のPublication Manual 第7版に準拠する。参考として、Purdue大学のサイトを挙げる。
https://owl.purdue.edu/owl/research_and_citation/apa_style/apa_formatting_and_style_guide/general_format.html

- 著書の場合：
  Baker, C. (2011). *Foundations of bilingual education and bilingualism* (5th ed.). Multilingual Matters.
  ＊著者名（姓の後にコンマ、名のイニシャル表記の後にピリオド）、発行年（半角カッコの後にピリオド）、著書名（イタリック体表記の後にピリオド）、出版社名（最後にピリオド）
- ジャーナル掲載論文の場合：
  Creese, A., & Blackledge, A. (2010). Translanguaging in the bilingual classroom: A pedagogy for learning and teaching? *The Modern Language Journal, 94* (1), 103-115. http://doi.org/bmvrsp

＊発行年(半角カッコの後にピリオド)の後、論文名（後ろにピリオドなどの文末記号）、ジャーナル名*（イタリック体表記）＋イタリック体コンマ＋イタリック体巻数＋* (ローマン体号数)＋コンマ、ページ番号＋ピリオド、DOI情報（ピリオドなし）

- 著書掲載論文の場合：

Cummins, J. (2009). Fundamental psychological and sociological principles underlying educational success for linguistic minority students. In T. Skutnabb-Kangas, R. Phillipson, A. K. Mohanty & M. Panda (Eds.), *Social justice through multilingual education* (pp. 19-35). Multilingual Matters.

＊ページ番号は著書名の後に(pp.〇〇–〇〇). と記す。その後に出版社名を記載。

＜和文・英文以外の言語による文献表記＞

オリジナルの言語の慣習に従った文献リストを提示した上で、和文の論文の場合は和訳、英文の論文の場合は英訳したタイトルを［　］に入れて提示すること。

7．著者自身の先行研究などの伏字表記

- 本文中の場合：

×××（××）は、言語能力について以下のような調査を行った。

これについては異なる結果を導き出した調査もある（××，　××）。

- 引用文献リストの場合：

50音順にかかわらず引用文献リストの最初に下記のように書く。

××××（××）××××××××××××××××××××××××××

日本語タイトル

― 副題 ―

著者姓 著者名（所属）＊掲載決定後記入
e-mail address　＊掲載決定後記入

（1 行あける）

English Title:

English Subtitle

First name Family name（例：Hanako Yamada　）　＊掲載決定後記入

（1 行あける）

キーワード：〇〇、××、△△、▽▽、□□（掲載決定前から記入）

（1 行あける）

1．節見出し

××

（1 行あける）

1.1 項見出し

××

1.1.1 項見出し

××

（1 行あける）

1.1.2 項見出し

××
××

（1 行あける）

表1　タイトル

xxxx	xxxx	xxxx
xxxx	xxxx	xxxx

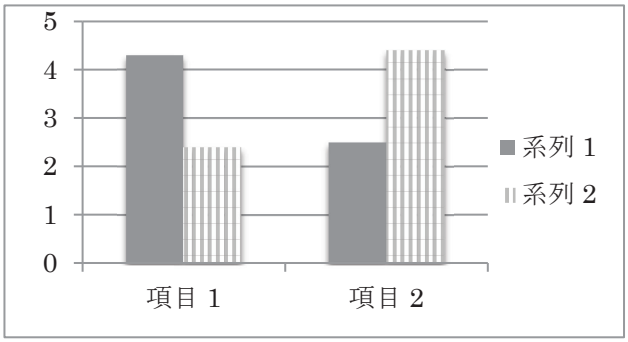
注 xxxxxxx

（1 行あける）

××

（1 行あける）

図1　タイトル



注　xxxxxxx

（1 行あける）

××

（1 行あける）

発話データ 1

××

発話番号 00

（1 行あける）

××

（1 行あける）

注

1)　××

2)　××

（1 行あける）

引用文献

あいうえお××

かきくけこ××

Abcdefg ××

要旨（投稿時に記入・規定文字数に含まれない）

××
××××××××××××××××××××××××××××××××（400 字以内）

（1 行あける）

Abstract（＊掲載決定後記入）

××
××
××（200 語以内）

編 集 後 記

8 月にオンラインで開催された研究大会では、「公正な言語教育を求めて–バイリンガルろう教育を再考する」をテーマに掲げ、ろう児の教育がご専門の Ruth Swanwick 博士、Daniel Fobi 博士、Richard Doku 氏の 3 人をお迎えし、「バイ / マルチリンガル小児期ろう教育：コンテクストを超えた対話」をテーマに基調講演をしていただきました。また森壮也氏による「ろう者のセルフ・アドボカシー：手話にまつわる人生の諸戦略」と題した特別講演や、「言語とアイデンティティ」をテーマとしたパネルセッション、そして、会員による研究発表などが行われ、活発な意見交換ができました。本号は、2023 年度の研究大会と同じテーマを特集テーマとし、基調講演及び特別講演の講演録、パネルセッションを受けた招待論文、一般投稿論文 5 本（研究論文 2 本、研究ノート 3 本）を掲載いたしました。

本号には 10 本の投稿論文が寄せられ、査読委員による厳正な査読を経て、5 本が採択されました（採択率 50%）。惜しくも採択に至らなかった論文の中にも、この分野の研究や実践に大きく寄与する優れた論考も多くありました。MHB 学会では、会員の皆さまの研究に役立てていただけるよう、査読者及び編集が心を尽くして講評をお返ししておりますので、ぜひ再度投稿していただきますようお願いいたします。

査読に関わってくださった皆さまには、貴重なお時間と労力を惜しまずにご対応くださったことに心から感謝申し上げます。編集に際しましては、校正者石丸美子氏、あおぞら印刷さまにご尽力を得ました。不慣れな編集作業で至らぬ点も多くあったことと存じますが、支えてくださいましたすべての皆様に深く御礼申し上げます。

MHB 学会理事　紀要編集委員
松尾 由紀

母語・継承語・バイリンガル教育(MHB)研究 第20号
2024年5月31日　発行©2024母語・継承語・バイリンガル教育（MHB）学会
発行者：母語・継承語・バイリンガル教育（MHB）学会
MHB事務局：〒603-8577 京都市北区等持院北町56-1
立命館大学 文学部
佐野 愛子 研究室内 MHB事務局
電話： 075-466-3171（直通）　URL. https://mhb.jp
印 刷 所：株式会社あおぞら印刷　〒604-8431 京都市中京区西ノ京原町15